環境経営レポート

第15版　作成　2024年8月9日

対象期間　2023年7月～2024年6月

松尾建設有限会社

目　次

1. 事業概要 ・・ 3

1)事業者名及び代表者 ・・ 3

2)所在地 ・・ 3

3)環境管理責任者 ・・ 3

4)連絡先 ・・ 3

5)事業活動の内容 ・・・ 3

6)対象範囲 ・・・ 3

7)事業規模 ・・・ 3

8)推進組織図 ・・・ 3

2. 環境経営方針 ・・・ 4

3. 環境経営目標 ・・・ 5

4. 環境経営目標の実績 ・・ 5

5. 環境経営計画と取組み結果及びその評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反・訴訟の有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

8. 代表者による見直し評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

9. 地域貢献活動のご紹介 ・・ 8

1. 事業概要

1）事業者名及び代表者名

松尾建設有限会社

代表取締役社長　　松岡慶次郎

2）所在地

本　　社・・・・〒883－1604　宮崎県　東臼杵郡椎葉村大字松尾523番地

資材置場・・・・〒883－1604　宮崎県　東臼杵郡椎葉村大字松尾523番地

3）環境管理責任者

EA-21責任者　：椎葉 春香

4）連絡先

連絡担当者　：　椎葉 春香

TEL　：0982-67-1705

FAX　：0982-67-1020

E-mail:　matuo-1705@sea.plala.or.jp

5）事業活動の内容

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、舗装工事業、石工事業、
鋼構造物工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業）

6）対象範囲

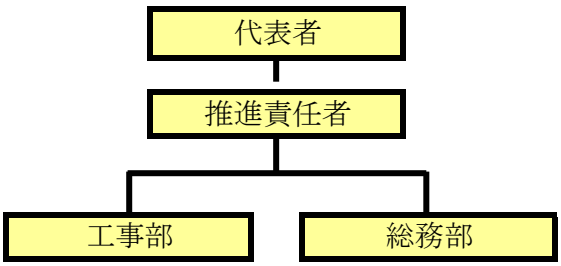
・対象組織・・・全組織（本社・資材置場）

・対象活動・・・建設業（土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、舗装工事業、
石工事業、水道施設工事業）

7）事業規模

項目	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	8	9	7	6	7	7	8	8	27
従業員数	8	8	8	8	8	9	9	9	9
床面積（㎡）	60	60	60	60	60	60	60	60	60
資材置場面接（㎡）	700	700	700	700	700	700	700	700	700

8）推進組織図



環境経営方針

《基本理念》

当社の建設事業が地球に与える環境負荷を認識し、自然豊な地球を守るため
社員一丸となって積極的に環境保全の構築に取り組みます。

《行動指針》

当社は、事業活動を通じて環境経営システムを構築し、環境経営目標及び
環境経営計画を定め、環境経営システムの継続的な改善に努めます。

1.当社の事業活動に於いて環境に与える影響を削減する為、以下を
重点事項として優先的に取組みます、

①省エネ活動により二酸化炭素排出量の削減に努めます。

②廃棄物の適正処理とリサイクルに努めます。

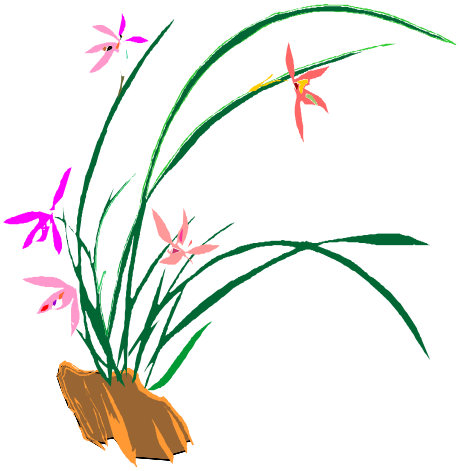
③節水活動による水使用量を節減します。

2. 建設現場では、新技術活用や創意工夫で安全且つ効率的施工に努めます。

3. 環境に配慮した施工に努めます。

4. 積極的な地域貢献活動に努めます。

5. 事業活動に伴う環境関連法規を尊守し、行政機関、地域等の要請に協力します。



制定;2012年1月10日
改定;2019年7月　1日

松尾建設　有限会社
代表取締役　松岡 慶次郎

3. 環境経営目標

過去3年間の実績平均値を基準値として、第五3ヶ年目標を設定しました。

取組み項目（目標項目）（単位）		実施区	第五次中期目標 基準値（2018年度～2020年度の平均値）	2022年度（2022年7月～2023年6月）	2023年度（2023年7月～2024年6月）	2024年度（2024年7月～2025年6月）
1. 二酸化炭素排出量の削減 （kg-CO_2）		全社	71,374	70,672	69,969	69,267
省エネルギー項目	①電気使用量の削減 （kWh）			0.5%削減	1.0%削減	1.5%削減
		事務所	4,661	4,638	4,615	4,591
	②ガソリン使用量の削減 （L）			1.0%削減	2.0%削減	3.0%削減
		全社	5,215	5,163	5,110	5,058
	③軽油使用量の削減 （L）			1.0%削減	2.0%削減	3.0%削減
		現場	22,108	21,887	21,666	21,445
2 廃棄物の削減	①一般廃棄物最終処分量の削減 (kg)			0.5%削減	1.0%削減	1.5%削減
		事務所	41.1	40.9	40.7	40.5
	②建設副産物の再資源化向上	現場		再資源化率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 （m^3）				0.5%削減	1.0%削減	1.5%削減
		事務所	37.7	37.5	37.3	37.1
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上		全社	環境経営計画の順守を目標とする			

＊建設副産物の再資源化率は（再利用＋再生利用＋熱回収）÷総排出量×100

＊一般廃棄物は総廃棄物を分別して資源化を推進し、資源化とならない最終処分のごみの削減を目標としています。

4.環境経営目標の実績

＊2023年7月から2024年6月までの1年間の実績は以下の通りです。

取組み項目		実施区	目標値	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量(kg-CO2)		全社	69,969	129,351	54.1%	×
	①電気使用量の削減 （kWh）	事務所	4,615	5,241	88.1%	×
	②ガソリン使用量の削減 （L）	全社	5,110	7,392	69.1%	×
	③軽油使用量の削減 （L）	現場	21,666	42,514	51.0%	×
2 廃棄物の削減	①一般廃棄物最終処分量の削減 (kg)	事務所	40.7	30.8	258.9%	○
	②. 建設副産物のリサイクル率向上（%）	現場	95%	99.8% (114.03t/114.22t)	105.1%	○
3. 水資源使用量の削減 （m^3）		全社	37.3	67.0	55.7%	×
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上		現場	環境経営計画の順守	環境経営計画を順守しています	－	○

＊購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の調整後排出係数0.480を使用しています。

＊灯油とLPGを含む全体の二酸化炭素排出量は、132,242.5 kg-CO2 です。

5.環境活動計画と取組の結果及びその評価

取組項目	活動内容	取組み結果とその評価	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	不在箇所や不要箇所の消灯の徹底、及び全ての照明のLED化、照明器具の定期的な清掃や、夏場のエアコン使用抑制などで節電を図っているが、災害復旧工事で事務所作業も増えて、電気使用量がやや多くなって88.1%の達成率。	○
	②空調温度管理(設定温度遵守)		○
	③照明器具や空調機の定期的な清掃		○
	④高効率蛍光灯等の省エネルギー型照明器具に切り替え		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど)	ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞはもとより現場通勤はできるだけ相乗りを推進して省エネを図る等、全社員が徹底した省エネ活動を推進しているが、災害復旧工事現場が多数あり、移動の為の現場のガソリンが増加て、69.1%の達成率となった。	○
	②効率の良い配車・相乗りの推進		○
	③Uターン防止の為の事前段取りの徹底		○
・軽油使用量の削減	①エコドライブの徹底(アイドリングストップなど)	災害復旧工事等で重機を多く使用したため、軽油消費量がやや多くなって、目標達成率が51.0%となった。特に軽油は工事の内容に大きく影響するが、今後も定期整備やﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作抑制など、節減活動を徹底する。	○
	②重機の定期点検整備の実施		○
	③重機のﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作抑制(ｱｸｾﾙ8割運動の推進)		○
	④ダンプなどは不要な荷物を積んだまま走行しない		○
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	日頃から廃棄物を分別して資源化を推進し、地域の資源として提供するなど、徹底した分別で最終処分量の削減を図り、昨年に引き続いて258.9%の目標達成となった。今後も分別の徹底で地域の資源としての提供を増やしていく。	○
	②コピー用紙などの節減		○
	③資材梱包材の業者持帰り依頼		○
・再資源化率の向上	①残余材が発生しないような発注管理と在庫管理の徹底	建設副産物はｺﾝｸﾘｰﾄ塊とｱｽｺﾝ塊、及び木くずがほとんどであったが、水道工事で少量の廃プラが発生して、再資源化率は99.8%となった。資材発注時は在庫の有無を必ず確認して発注するなど、残余材の発生防止に取組んでいる。	○
	②廃材はできるだけ分別して再利用する		○
	③廃棄はリサイクル業者へ依頼している		○
・水資源使用量の削減	①定期的な漏水点検	毎月漏水点検を実施して節水意識を高めた。事務所内作業が多かった事と、冬場に凍結防止の為蛇口を開けたままにしている為、55.7%の未達成となった	○
	②洗車時は山水を使用する		○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上	①工事現場では環境配慮型重機(騒音規制・低排出)を使用する	環境配慮型重機使用は徹底している。又、各現場で最適人員や、最適機器・重機の投入及び天気予報の把握等、しっかりした工程管理を推進して、工期短縮を図るようにしている。現場の環境調査は、特に湧水や澤水の有無、地質の確認等を実施している。	○
	②各現場ごとに工期短縮に取り組む		○
	③建設現場等の事前環境調査の実施及び対策を実施している		○

6.次年度の環境経営目標と環境経営計画取組内容

取組項目		2024年度の目標	活動内容
二酸化炭素排出量の削減		69,267kg-CO2	省エネ活動の推進
エネルギー	・電気使用量の削減	4,591 kWh以下	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底
			②空調温度管理（設定温度遵守）
			③照明器具や空調機の定期的な清掃
	・ガソリン使用量の削減	5,058 L以下（全社）	①エコドライブの徹底(ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟなど)
			②効率の良い配車・相乗りの推進
			③Uﾀｰﾝ防止の為の事前段取りの徹底
	・軽油使用量の削減	21,445 L 以下(現場)	①エコドライブの徹底(ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟなど)
			②重機の定期点検整備の実施
			③重機のﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作抑制(ｱｸｾﾙ8割運動の推進)
			④ダンプなどは不要な荷物を積んだまま走行しない
廃棄物	・一般廃棄物の削減	40.5kg 以下 (最終処分量)	①廃棄物の分別計量と記録
			②コピー用紙などの節減
			③資材梱包材の業者持帰り依頼
	・建設副産物の再資源化率の向上	95%以上 (再資源化率)	①残余材が発生しないような発注管理と在庫管理の徹底
			②廃材はできるだけ分別して再利用する
			③廃棄はリサイクル業者へ依頼している
・水資源使用量の削減		37.1 ㎥以内 (事務所)	①定期的な漏水点検
			②洗車時は山水を使用する
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上		環境経営計画を順守する	①工事現場では環境配慮型重機（騒音規制・低排出）を使用する
			②各現場ごとに工期短縮に取り組む
			③建設現場等の事前環境調査の実施及び対策を実施している

7.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の事業に関係する環境関連法規は、定期的に日建連のURLで確認しています。
尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。
また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟もありませんでした。
現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

当社の事業に関する主な環境関連法規は以下の通りです。

主な環境関連法規	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	・委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	・回収・照合確認（発行後B2,D票90日E票180日以内） ・A表の5年間保管	遵守
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告 （6月30日までに知事へ報告）	遵守
	・保管場所の掲示板設置	遵守
建設ﾘｻｲｸﾙ法	・発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	・工事着手する日の7日前までに必要事項を県知事に届出	遵守
	・分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
ﾌﾛﾝ排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用ｴｱｺﾝ等の簡易点検実施 （重機搭載のｴｱｺﾝを含む）	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施 ・年1回の法定点検の実施	遵守

8.代表者による全体評価と見直しの結果

2010年7月からエコアクション21環境活動に取組み始めて14年が経過しましたが、
現在では、全社員がほぼ環境活動の重要性を理解して自主的に活動しています。
尚、目標値を数値で示していますが、現場の状況でその結果は異なるため、
活動の評価が難しいことが多くありますが、この環境活動を継続して実施する事は、
地球環境負荷の低減に繋がり、僅かですが地温暖化防止等、持続可能な社会の
構築に貢献出来ていると信じて、このエコアクション21環境活動を継続する所存です。